

【問題提起】第10分科会

「リハビリテーションの現場で求められるもの」

○運営委員

臼井弥生 長厚労

亀井真由美 ひまわりユニオン

広瀬辰巳 石川勤医協

福澤尚 飯田民医連

○助言者 なし

問題提起

皆さんの現場で、日々大切にしていることは何ですか？

診療報酬・介護報酬改定を重ねるごとに、患者、利用者、医療を取り巻く環境は急激に変化しています。リハビリテーション分野では、地域包括ケアの仕組みづくりが各地域で作られる中、患者、利用者の人権、受療権を守る取り組みが必要となります。障がい者を取り巻く福祉制度もこの10年程の間、めまぐるしい改変を重ねてきました。障がい者の所得実態の調査では、1人当たりの平均年収は、100万円に満たない者が56.1%、いわゆるワーキングプアとされている年収200万円以下でみると、98.9%までがこの範囲に納まり、障がい者の置かれている現実是非常に厳しいといえます。

また私たちの労働環境も変化してきています。厳しい経営環境の中で成果主義、収入増の数値目標が追及されてきています。労働条件がきつくなってはいませんか？リハビリテーション分野における「労働環境」に関する実態については十分把握されていないのが現状です。ぜひ全国の状況を共有し、働きやすい職場を作っていきましょう。

昨年の医療研分科会では、地域連携の在り方、また急激な人員増加での教育指導体制などの問題が参加者から報告され参加者で意見交換、経験交流を行いました。研修に関しては全国から創意あふれる取り組みの報告が行われました。今年もさらに多くの報告をお願いいたします。

地域包括ケアが推進される中、職種間・地域の中での連携は大切な課題です。私たちの仕事は、患者・利用者によりよい治療を提供することと同時に、障がいを持った方々や高齢者を取り巻く環境に対するアプローチも大切になります。その方に関わる人たちに対する情報提供や助言、具体的な方法伝達や指導、適切な関わり方ができるような働きかけなどの他職種との情報交換、それらが継続していくための仕組み作りなど、直接的には診療・介護報酬アップにつながるけれども大切なことがたくさんあります。更に患者、利用者としてだけではなく一人の住民として、その地域で住み続けるための地域への働きかけが必要となります。この分科会で、それぞれの職種の実践や日頃感じていることなどレポートを持ち寄り、全国の仲間と問題を共有し討論して、明日からの力にしていきましょう。皆様のご参加をお待ちしています。

なお、レポートは期限までに提出してくださるようお願いいたします。レポートは症例報告でも構いませんが、その症例を通して、問題提起の内容について皆さんの考えを述べていただきたいと思います。また当日のプレゼンテーションで動画の使用はできません。動画使用の場合はご自身のパソコンをお持ちいただけるようお願いいたします。